川越の誇りを取り戻す！女性団体有志が立ち上がる。めざそう！！発足。

「私たちのための市議会をめざそう！！」（山口陽子代表）がこのほど政治団体として届け出をした。

今回の新井喜一元市議、樋口直樹市議、海沼秀幸市議が認定された市議会事務局女性に対するセクシャルハラスメント問題に対していよいよ怒れる市民50名が立ち上がった。

記者会見は12日行われた。副代表に名を連ねるのは川越在住の作家野村路子氏□peaceやまぶき代表の松尾美保子氏。野村氏はさいたま市から川越に移り住んだ□peaceやまぶきは文化で川越をもりあげようという団体で演劇、朗読、コンサート、創作展などの幅広い活動を展開している。

山口陽子氏は市長・川合善明氏を初当選以来ずっと支えてきており、2016年結成された「川越の未来を考える会」の事務局でもある。

「セクハラ問題が起きても女性議員が七名もいるのに行動を起こさない。行動すべき時になぜ？ボス政治いわゆるムラオサ政治が横行し、議員に活力がなく、市議会傍聴の市民がいるのにもかかわらず、市議会そのものに緊張感がない。議案一つに対する問題意識も感じられない。議会は市民のためなのに」と山口陽子代表。

現職優先といわれがちな市議会議員選挙。新井喜一氏の出馬の話もちらほら。当然のことながらセクハラ認定された樋口・海沼両市議も出馬？新人数名も後援会活動をスタートしており、「私たちの市議会をめざそう！！」からの候補擁立は台風の目になるか？

いずれにしても伝統ある川越。「いいこと」で全国報道は大歓迎だが、破廉恥報道では「伝統・川越」の名がすたる。2020年東京オリンピックは目前。海外の人は「ハラスメント行為」には敏感で嫌悪感が強い。川越のおもてなしの先頭を切る「市議会議員」の選挙まであと120日あまり。市民こそ高いアンテナをはって「市議会議員」を選んでいかなくてはならない。